

1 9 9 6 2 1 1

ほほえみ

第 6 号

今年の静岡市は12年ぶりの積雪を記録するなど非常に寒い冬を迎えています。久しぶりに積もった珍しい雪に静岡の人は喜びましたが、一方で交通事故が多発するなど生活が大混乱し、雪を恨めしく思った人もいたようです。

考えてみれば日本の多くの雪国では朝起きて道路の雪かき、屋根の雪下ろしなど当たり前の日常生活です。その大変さは体験した人でないとわかりませんが、その地方の人にとっては当たり前のことでさほど苦になっている様子もありません。逆に雪像やかまくらを作り、その静かな音のない世界を楽しんでいるようにも見えます。人はそれぞれどんな環境、状況の中でもたくましく、また楽しさを見いだして暮らす知恵を誰もが持っているようです。

春はもうすぐ、そこまで来ています。

< 第 8 回 ほほえみの会 >

今回は3連休の中日ということもあり、出席者は少なかったものの新会員の加入もあり、静岡骨髄バンクを推進する会の副会長三田村真さんも出席してくださり有意義な会となりました。

三田村さんはドナー経験者の1人であり、骨髄提供の体験を経て健康のありがたさを知り、病気で苦しむ子供達に少しでも早く笑顔を取り戻してほしいと頑張っておられます。

日本での骨髄バンクは4年前にスタートしたばかり。民間組織の東海骨髄バンクと日本骨髄バンクがあり、毎月30例づつの移植が全国の病院で行われている。

ドナーは7万人登録。患者2人に1人のドナーが見つかる状態だ

が移植をするには3次検査までが必要。

ドナー登録の目標は10万人、10万人いれば8割の患者のHLAが合う。今年中に集めたいが最近低迷している。また年齢制限(20歳~50歳)や住所変更でキャンセルもある。年齢制限は医学的な根拠無く上げることも検討中。

おとしし全国で170万人の署名を集めたが国は動かない。

移植の順番待ちでチャンスを失うケースも全国であるため、今後も国民の声をあげていきたい。全国の移植医が集まって移植センターづくりの構想(東大内にセンターを作る準備)もある。

県内には移植コーディネーター医師は7人。ドナーはいつやめても責任は問われない。提供者は全身麻酔をかけるため、医療事故が全くないとは言えない。提供の最終同意は提供者本人と家族が同席、弁護士など第三者が立ち会って説明。家族の同意が得られずキャンセルも多い(キャンセル全体の2/3)

同意が得られたあと患者は治療に入る。治療にはいったらドナーも体調や事故に気を遣ってもらう。

ドナーの骨髄採取入院は4日から7日、事後フォローも必要。

公務員は公休扱い、また企業でもボランティア休暇を認めるところもある。いずれにしても企業の理解が必要。

世界の骨髄バンクはアメリカ(ドナー180万人登録)イギリス(60万人)が盛ん。3年前に台湾でもスタート、宗教と政治団体がらみの強要でドナー20万人

アメリカから直行便で空輸24時間以内の移植を目指す試みも進められている。が、日本人はアメリカ人より韓国やモンゴル系の人とHLAが合うケース多いため、アジアとの連携ネットワークづくりが進められている。

病気の子供達のサマーキャンプが今年8月静岡県で行われる。これは(財)日本児童家庭文化協会が毎年全国各地で行っているもので、子供達の面倒は全てボランティアがみてる。親にゆっくりしてもらい交流をして情報交換しようというもの。医師、看護婦も同行するので多くの皆さんの参加をお待ちする。

次回は 3月10日(日)12時からです